

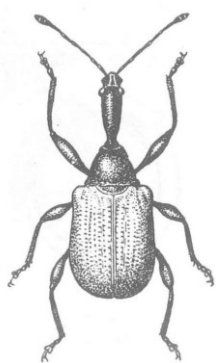
野山の不思議 ⑩

昆虫がつくる揺りかご おとしぶみ

おとしぶみは落文または落書と書き、江戸時代以前、政治批判、社会風刺などの文書を巻物風にして各所路上に落としたもの、言わば非合法の宣伝手段でした。同様のことを壁や塀などに書いたものも「落書」(音読みでラクショとも)と呼ばれましたが、こちらは、その後「らくがき」と読まれて現在の「落書き」の語源になりました。またおとしぶみはラブレター用にも使われたとのこと。

初夏から夏にかけて、山道などに木の葉を上手に巻いたもの(写真)が落ちています。これは小さな昆虫が卵を産みつけ、それを木の葉で巻いたもので、言わば子育ての揺りかごなのです。卵から孵(かえ)った幼虫は揺りかごを内部から食べて中で育ちます。

この「揺りかご」がおとしぶみに似ているので、そう呼ばれるようになり、さらにその揺りかごを作る昆虫に「オトシブミ」という名がつけられました。



昆虫のオトシブミは体長1センチ前後またはそれ未満の小さな虫で、昔はゾウムシ科に入れられていましたが、現在ではオトシブミ科として独立し、日本で23種確認されています。特異な形と色等で独特の魅力があり、昆虫少年を夢中にさせたものです。

オトシブミの成虫を見つけるのは容易ではありませんが、その揺りかごは注意すれば見つけることが出来ます。夏の山歩きの楽しみの一つです。

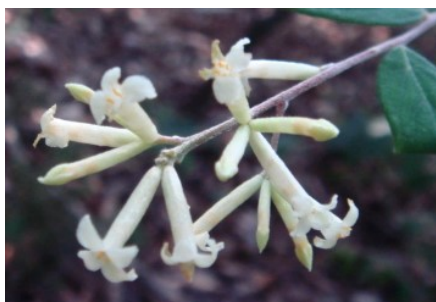
(上オトシブミ。平凡社「世界大百科事典」より。禁転載)

※この「野山の不思議」は健生会友の会発行の「ふれあい広場」に掲載されたもので、編集部了解を得て転載しますが、その際加筆し、写真を追加しています。



今、二上山に咲いている花

下 左から ガンピ、ネズミモチ、イチヤクソウ



ことし一月、土庫病院山歩きクラブのハイキング講座で

「一次救急救命措置」を学ぶ



土庫病院友の会山歩きクラブ主催のハイキング講座が、今年1月29日（土）午後健生荘で行われ、仲間と共に受講しました。指導、助言は土庫病院の矢持医師と救命救急スタッフ5名。

はじめに矢持医師がパワーポイントによるスライドを使って、心臓発作などを起こした人には、何よりも一次救急措置を行うことの大切さを説明。そういう場合にはまず当人に「どうしました」と大きな声で

問いかけつつ、呼吸しているのか、意識があるのかを確かめ、近くの人に協力を求めて、救急車を呼び、呼吸していない場合は交代しつつ心臓マッサージを行うことが必要と強調しました。

その後5つの班に分かれて、人形と訓練用AED（自動体外式除細動機）を使って実習。医療スタッフの助言、説明を受けつつ、心臓マッサージの訓練を行いました。

参加したAさん（男性）は「はじめて受けた。AEDがあることは知っていたが、今日は使い方を学んでよかった」、Bさん（女性）は「2回目の受講だが、今回は医学的説明を受けつつの実習なので、よく分かった。繰り返し受ける必要があると思った」と感想を述べていました。

好評でした「二上山に咲く花」写真展

6月14日～19日間に広陵町の喫茶店で開かれました。主催は土庫病院友の会山歩きクラブ。今回は春から初夏の花、二上山を代表するササユリやシライトソウ、イチヤクソウ、ホタルカズラなど30点。同クラブの澤木仁さんの労作。

また同クラブの例会登山の写真記録4点も展示、こちらは稲毛邦浩さんの手になるもの。いずれも好評でした。



次回は9月9日～11日に高田市さざんかホールで「夏から秋の花展」を開きます